

移動等円滑化取組報告書（鉄道車両）

（2021年度）

住 所 〒110-8614  
東京都台東区東上野3-19-6  
事業者名 東京地下鉄株式会社  
代表者名 代表取締役社長 山村 明義

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第9条の5の規定に基づき、次のとおり報告します。

I 前年度の移動等円滑化取組計画書の内容の実施状況

(1) 移動等円滑化に関する措置の実施状況

① 鉄道車両を公共交通移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置

対象となる鉄道車両	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
自社保有車両	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型車両導入（有楽町線・副都心線14編成、半蔵門線4編成）</li> <li>・ 既存車両の大規模改修時におけるフリースペースの整備（東西線2編成）</li> </ul> ※いずれも1編成中の全車両にフリースペースを設置し、移動等円滑化基準を満たすものである。 ※有楽町線・副都心線及び半蔵門線の新型車両については、車両とホームの段差低減、フリースペース近傍ドアのドアレールに切り欠き施工を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型車両導入（丸ノ内線12編成、日比谷線2編成、有楽町線・副都心線4編成）</li> <li>・ 既存車両の大規模改修時におけるフリースペースの整備（東西線1編成）</li> </ul> ※いずれも1編成中の全車両にフリースペースを設置し、移動等円滑化基準を満たすものである。

② 鉄道車両を使用した役務の提供の方法に関し法第八条第二項及び第三項の主務省令で定める基準を遵守するために必要な措置

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
新型車両搬入	車両とホームの段差低減、フリースペース近傍ドアのドアレールに切り欠き施工を実施した新型車両を、有楽町線・副都心線に14編成、半蔵門線に4編成導入	車両とホームの段差低減、フリースペース近傍ドアのドアレールに切り欠き施工を実施した新型車両を、有楽町線・副都心線に4編成導入

③ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる乗降についての介助、旅客施設における誘導その他の支援

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
該当なし		

④ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる情報の提供

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
該当なし		

⑤ 移動等円滑化を図るために必要な教育訓練

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
該当なし		

⑥ 高齢者、障害者等が高齢者障害者等用施設等を円滑に利用するために必要となる適正な配慮についての鉄道車両の利用者に対する広報活動及び啓発活動

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
該当なし	車内ステッカー等で周知 ※新規での取り組みはございません。	

(2) 移動等円滑化の促進を達成するために(1)と併せて講ずべき措置の実施状況

--

(3) 報告書の公表方法

--

(4) その他

--

II. 鉄道車両の移動等円滑化の達成状況

(2022年3月31日現在)

鉄道の種類	事業の用に供している編成数 (両)	公共交通移動等円滑化基準省令に適合した編成数 (両)	車椅子スペースの数が公共交通移動等円滑化基準省令の規定を満たしている編成数	便所のある編成数	便所のある編成のうち車いす対応型便所のある編成数	案内装置のある編成数	車両間転落防止設備のある編成数
普通鉄道(その他)	343 編成 2,736 (両)	340 編成 0 (両)	341 編成	0 編成	0 編成	340 編成	343 編成
(合計)	343 編成 2,736 (両)	340 編成 0 (両)	341 編成	0 編成	0 編成	340 編成	343 編成

(2022年3月31日現在)

改正前の公共交通移動等円滑化基準省令に適合した編成数 (両)(令和13年7月施行前の基準への適合状況)	改正前の公共交通移動等円滑化基準省令に適合した編成数 (両)(令和12年4月施行前の基準への適合状況)	車椅子スペースの数が改正前の公共交通移動等円滑化基準省令の規定を満たしている編成数(令和13年7月施行前の基準への適合状況)	車椅子スペースの数が改正前の公共交通移動等円滑化基準省令の規定を満たしている編成数(令和12年4月施行前の基準への適合状況)	案内装置のある編成数 (令和12年4月施行前の基準への適合状況)
340 編成 2,720 (両)	340 編成 2,720 (両)	341 編成	341 編成	340 編成
340 編成 2,720 (両)	340 編成 2,720 (両)	341 編成	341 編成	340 編成

事業者名 東京地下鉄株式会社

(2022年3月31日現在)

乗降口の戸の開閉する側を音声により知らせる設備のある編成数	うち、自動的に知らせるための設備のある編成数(連続)	うち、自動的に知らせるための設備のある編成数(予告)
342 編成	0 編成	342 編成
342 編成	0 編成	342 編成

事業者名 東京地下鉄株式会社

(2022年3月31日現在)

第32条第8項以外、移動等円滑化基準に適合するもの	運行情報提供設備のある編成数	車椅子スペースの数が改正後の公共交通移動等円滑化基準省令に適合している編成数(令和15年4月施行の基準への適合状況)	通勤型(短距離)鉄道・地下鉄において、1車両に1以上の車椅子スペースを設置している編成数(両)
0 編成 0 (両)	309 編成	341 編成 2,730 (両)	152 編成 1,152 (両)
0 編成 0 (両)	309 編成	341 編成 2,730 (両)	152 編成 1,152 (両)

事業者名 東京地下鉄株式会社

(2026年3月31日見込み)

公共交通移動等円滑化基準省令に適合している編成数 (両)	車椅子スペースの数が公共交通移動等円滑化基準省令に適合している編成数	案内装置のある編成数 (両)
335 編成 2,704 (両)	336 編成	335 編成 2,704 (両)
335 編成 2,704 (両)	336 編成	335 編成 2,704 (両)

Ⅲ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行規則第6条の2で定める要件に関する事項

<p>(1) 過去3年度における1年度当たりの平均の輸送人員が1000万人以上である。</p>	<p>○</p>
<p>(2) 過去3年度における1年度当たりの平均の輸送人員が100万人以上1000万人未満であり、かつ、以下のいずれかに該当する。 ①中小企業者でない。 ②大企業者である公共交通事業者等が自社の株式を50%以上所有しているか、又は自社に対し50%以上出資している中小企業者である。</p>	